

# A大学図書館機能の現状と課題 教員を対象とした 利用者アンケート結果から

著者	吉岡 恵, 永野 淳子, 井手段 幸樹, 佐藤 有妃, 櫻井 真智子, 唐澤 千登勢, 吉田 文子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	14
号	1
ページ	127-135
発行年	2022-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1050/00000297/">http://id.nii.ac.jp/1050/00000297/</a>



活動報告

# A 大学図書館機能の現状と課題 教員を対象とした利用者アンケート結果から

Current Status and Issues of Library Functions in A University  
Library: Through the Result of the Faculty Questionnaire

吉岡 恵<sup>\*1</sup> 永野 淳子<sup>\*2</sup> 井手段 幸樹<sup>\*1</sup> 佐藤 有妃<sup>\*3</sup>  
櫻井 真智子<sup>\*1</sup> 唐澤 千登勢<sup>\*2</sup> 吉田 文子<sup>\*1</sup>

Megumi Yoshioka, Junko Nagano, Koki Itedan, Yuki Sato,  
Machiko Sakurai, Chitose Karasawa, Fumiko Yoshida

キーワード：図書館機能, 教員, 現状, 課題, 大学図書館利用者アンケート

Key words: Library functions, Current status, Issues, The faculty questionnaire

## 要旨

本研究の目的は、大学教員による A 大学図書館の利用実態および、図書館の設備・運営といった機能に関する現状と課題を明らかにするとした。調査の結果、48名(80%)から回答を得た。来館・非来館ともにニーズがあり、重視する図書館機能・サービスは、資料(図書・雑誌)や文献データベースの種類と数などであった。また、図書館の満足度は、「そう思う」と「ややそう思う」で38人が回答し、肯定的理由は【図書館サービスの充実】や【レファレンスサービス】であった。図書館への期待は、学生が利用者として、【学修に必要な図書の充実】、【教育的な利用支援の充実】、【実践に関する知を採求できる場】など4カテゴリーが、教員が利用者として、【レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援】、【多様な蔵書や非来館サービスの充実】、【知へ探究を楽しむ場】など5カテゴリーがあった。大学教育や研究を支える学術情報基盤への充実への期待から、更なる図書館の【教育的な利用支援の充実】や【レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援】といった要望があった。

---

受付日 2021年9月30日 受理日 2022年1月21日

\*1 佐久大学看護学部 Saku University Faculty of Nursing

\*2 佐久大学信州短期大学部 Department of Shinshu Junior College of Saku University

\*3 佐久大学図書館 Saku University Library

## I. 緒言

大学図書館の設置は、大学設置基準において定められており、大学の日々の「学修と研究」を支援する図書館機能の役割は大きい。大学図書館は、「大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を担い、大学の教育研究を支える機関として重要な位置づけ」を担っている(文部科学省, 2010)。こうしたなか、大学図書館の利用者ニーズも多様化している。そのため大学図書館では利用者アンケートを実施し、その結果を大学ホームページで公表している。その回答の比率は、学生が教職員よりも高い傾向にある。

大学図書館機能に関する文献をCiNiiで検索(大学、図書館、機能のキーワードをタイトルに含む)すると、1981年から2020年までに108件であり、直近5年間は年平均2件である。また、大学教員を対象とした利用調査に関する研究論文をタイトルで判断すると7件であり、大学図書館の調査は行われていながらも教員を対象とした研究は少ない。大学図書館機能の促進に向けて教育と研究を行う教員の要望や意見を把握することは急務といえる。そのため、本研究では、大学教員によるA大学図書館の利用実態および、利用者ニーズを把握し、図書館の設備・運営といった機能に関する現状と課題を明らかにすることを目的とする。

## II. 調査概要

調査を行ったA大学は1学部、大学院1研究科、別科1専攻と短期大学部がある。その図書館の概要は、2020年5月現在、図書約4万冊、受入雑誌90誌、視聴覚資料約2000点、電子ブック約800冊、電子ジャーナル70誌、映像配信サービス、オンラインコンテンツを備えている。文献検索データベースは、医中

誌Web、JDreamⅢ、最新看護索引Web、メディカルオンライン、CINAHL with Full Text、ProQuest Nursing & Allied Health Databaseなど6種類が利用できる。環境は、100席ほどの閲覧席、ラーニングコモンズがある。

### 1. 調査対象者

A大学看護学部と短期大学部の専任教員と客員教員合わせて60人を対象とし、48人から回答を得た。内訳は看護学部39人、短期大学部9人で、回答率は80%であった。

### 2. 調査方法及び調査内容

調査方法は、プリコード形式及び自由回答形式を含むアンケート調査を実施した。調査対象者には、調査協力の依頼と調査票にアクセスできる所定URLを記したメールを筆者らが所属している図書館委員会から送信した。調査協力に同意を得た対象者が所定URLにアクセスして、回答を得た。

調査内容は、筑波大学図書館の利用者ニーズアンケート(筑波大学, 2018)などを参考に、図書館委員会で検討され、利用実態と利用者ニーズについての内容となっている。利用実態の回答は、「直近1年間での来館利用と非来館利用の割合」を来館利用と非来館利用を合わせて100%になるようにしている。非来館利用は、自宅や研究室から図書館ホームページを通して契約コンテンツやデータベースなどの利用とし、「来館利用と非来館利用の目的」への回答は、教育、研究、その他を合わせて100%になるようにしている。また、「来館と非来館での利用頻度の高いもの」と「図書館機能・サービスで重視するもの」については、多肢選択法による回答にしている。利用者ニーズのうち「図書館の満足度」や「ホームページの修正の必要性」に関しては「そう思う」から「思わない」の4件法を用いて回答を求め、その理由を自由記述とした。利用者

ニーズの回答については感想や要望を自由記述で求め、その調査項目は、「現在の図書館の満足度」、「図書館資料についての感想・要望」、「図書館ハード面とソフト面に関する感想・要望」、「図書館ホームページに関する感想・要望」、「学生に利用させる上で教員が図書館に期待すること」、「教員が利用者として図書館に期待すること」としている。

### 3. 調査期間

2020年10月28日から2020年12月25日の約2か月間であった。

### 4. 分析方法

来館利用と非来館利用の割合と目的については、回答割合を単純集計した。利用頻度と機能サービスで重視するもの、図書館の満足度やホームページの改善の必要性は、回答を単純集計した。自由記述の回答は、意味内容が変わらないように名称をつけてコード化し、類似しているコードをまとめて意味内容をあらわす名称をつけてカテゴリー化をした。意味内容の読み違いがないように、複数の研究者間で確認した。

### 5. 倫理的配慮

本報告は、A大学図書館委員会から提供された二次データを利用して分析したものである。調査は、連結不可能匿名化により実施されており、個人を特定することはできない。アンケート調査時には、調査票の冒頭で、回答は自由意志で、匿名であること、回答結果は報告として公表することが説明されている。同意は、回答を提出することで確認した。得られたデータは、個人を特定できないように

扱い、分析した。自由記述の分析では、個人が特定される内容が含まれていないかどうかを研究者らが確認した。なお一次データは、A大学教員に公表されている。本稿において開示すべき利益相反(COI)はない。

## Ⅲ. 調査結果

### 1. 来館と非来館利用の割合(表1)とその目的

来館利用と非来館利用の割合は、利用割合の合計が100%に満たない2件を除き、46件の回答を得た。来館利用の割合が70%以上と回答した教員は17人(37%)、非来館利用の割合が70%以上と回答した教員は18人(39.1%)であった。来館、非来館それぞれの目的は、二極化していた。

来館利用の目的は、授業準備が50%以上と回答した教員が30人(54.2%)、研究が50%以上と回答した教員が9人(19.6%)で、授業準備目的が多かった。また、その他の割合が50%と回答した教員が8人(17.4%)であった。非来館利用の目的では、研究が50%以上と回答した教員が23人(50%)、授業準備が50%以上と回答した教員が21人(45.7%)であり、非来館利用は教育、授業準備と研究を目的としていた。

### 2. 来館、非来館で利用頻度が高い図書館サービス

来館で利用頻度が高い図書館サービス(複数回答可)は、図書の貸出42人(87.5%)、雑誌の貸出25人(52%)、雑誌の閲覧21人(43.7%)、視聴覚資料の貸出17人(35.4%)、図書の閲覧15人(31.2%)、文献の取り寄せ8人

表1 来館利用と非来館利用の割合 n=46

来館／ 非来館	100% ／0%	90% ／10%	80% ／20%	70% ／30%	60% ／40%	50% ／50%	40% ／60%	30% ／70%	20% ／80%	10% ／90%	0% ／100%
回答数	3	7	3	4	2	6	3	8	6	4	0

(16.6%)、ラーニング commons の利用 7 人 (14.6%)、資料のコピーや PC の貸出 4 人 (8.3%)、レファレンスサービス 2 人 (4.2%) であった。

非来館で利用頻度が高い図書館サービス (複数回答可) は、医中誌 Web 39 人 (81.2%)、OPAC 30 人 (62.5%)、メディカルオンライン 27 人 (56.2%)、CINAHL with Full Text 13 人 (27.1%)、ビジュラクラウド (映像コンテンツ) 12 人 (25%)、ナーシングスキルズ日本版 11 人 (22.9%)、最新看護索引 Web 8 名 (16.6%)、SFX からの文献取り寄せや ProQuest Nursing & Allied Health Database がそれぞれ 7 人 (14.6%) であった。

### 3. 重視する図書館機能・サービス

重視する図書館機能・サービス (複数回答可) は、資料 (図書) の種類・数が 39 人 (81.2%)、資料 (雑誌) の種類・数が 35 人 (72.9%)、文献

データベースの種類・数が 28 人 (58.3%)、文献・資料の取り寄せ 23 人 (47.9%)、電子コンテンツ (雑誌) の種類・数 21 人 (43.7%)、資料 (視聴覚) の種類・数 19 人 (39.5%)、電子コンテンツ (映像) の種類・数 18 人 (37.5%)、電子コンテンツ (図書) の種類・数 16 人 (33.3%)、ラーニング commons スペース 14 人 (29.2%)、館内の快適さや開館時間が 12 人 (25%)、図書館ホームページ 9 人 (18.8%)、レファレンスサービス 8 人 (16.6%) であった。

### 4. 現在の図書館の満足度とその理由 (表 2)

現在の図書館の満足度は、48 人から回答を得た。その結果、満足していると「そう思う」13 人 (27.1%)、「ややそう思う」25 人 (52.1%)、「あまり思わない」10 人 (20.8%)、「思わない」0 人であった。また、満足度の回答理由 (36 人) は、肯定的理由と否定的理由に分類した。肯定的理由は、満足度について「そう思う」、

表 2 図書館に関する満足度の理由

カテゴリー (肯定的理由)	コード (回答数 19)
サービスが充実している	データベースが充実している (2) 雑誌が充実している (2) 書籍充実している (2) 映像コンテンツが利用しやすい (1) PC 貸出がある (1)
現状満足している	基本満足している (3) 必要なものが手に入る (2) 問題ないと思う (1)
レファレンスサービスに満足	対応が迅速で丁寧 (3) 資料入手ができる (2)
カテゴリー (否定的理由)	コード (回答数 22)
書籍・雑誌が充実していない	蔵書数が少ない (2) 一般書籍・雑誌が少ない (2) 専門書籍・雑誌が少ない (2) 雑誌が少ない (1) 書籍が古い (1)
館内環境が狭い	ラーニング commons が狭い (2) 閲覧スペースが狭い (2) 館内が狭い (3)
居心地がよくない	開放感がない (1) 快適さがない (1)
開館時間・休館時の対応が不満	開館時間が遅い (2) 休館時の対応が不満 (1)
データベースが少ない	文献データベースが少ない (2)

「ややそう思う」と回答した者の理由、否定的理由は、「あまり思わない」、「思わない」と回答した者の理由とした。肯定的理由は、3カテゴリー、10コード、否定的理由は、5カテゴリー、13コードが生成された。

肯定的理由は、【サービスが充実している】、【現状満足している】、【レファレンスサービスに満足】であった。【サービスが充実している】には、データベースや書籍の充実といった5つのコードが含まれた。【現状満足している】には、〈必要なものが手に入る〉、〈問題ないと思う〉などの3コードが含まれた。【レファレンスサービスに満足】には、〈対応が迅速で丁寧〉、〈資料入手ができる〉の2コードが含まれた。

否定的理由は、【書籍・雑誌が充実していない】、【館内環境が狭い】、【居心地がよくない】、【開館時間・休館時の対応が不満】、【データベースが少ない】であった。【書籍・雑誌が充実していない】には、蔵書数や一般または専門書籍・雑誌が少ないことなど、5コードが挙げられた。【館内環境が狭い】については、ラーニングコモンズと閲覧スペースが狭いことなどの3コードが含まれた。【開館時間・休館時の対応が不満】には〈開館時間が遅い〉、〈休館時の対応が不満〉の2コードが含まれた。【データベースが少ない】には、〈文献データベースが少ない〉という1コードが

含まれた。

## 5. 図書館の資料、ハード面とソフト面に関する感想と要望

### 1) 図書館の資料、ハード面とソフト面に関する感想(表3)

図書館資料、ハード面とソフト面に関する感想は、23件の回答を得た。【図書館の設備は十分である】には、〈静粛な環境が保たれている〉、〈施設・設備等が揃い満足〉、〈利用時間の継続〉の3コードが含まれた。その他のハード面に関しては、【図書館に行きにくい雰囲気】、【感染対策の拡充提案】というカテゴリーが挙げられた。ソフト面では、【図書館職員の対応やサービスに満足】、【信頼できる図書館職員の必要性】というカテゴリーがあった。【図書館資料に満足している】には、〈不都合なく利用できている〉、〈対応が迅速〉の2コードが生成された。

### 2) 図書館の資料、ハード面とソフト面に関する要望(表4)

図書館の資料、ハード面とソフト面に関する要望は、32件の回答を得た。【図書館資料への要望】には、〈書籍・雑誌、データベースが少ない〉や〈書籍や書籍コーナー、データベースの充実〉、〈書籍・視聴覚教材のリクエストの継続〉といった7コードが生成された。【図書館の設備等への要望】は、〈学修スペー

表3 図書館資料、ハード面、ソフト面に関する感想

カテゴリー	コード(回答数23)
図書館の設備は十分である	静粛な環境が保たれている(1) 施設・設備等が揃い、満足(1) 利用時間の継続(1)
図書館に行きにくい雰囲気	図書館周辺の照明が少なく暗く感じる(1) 閉ざされた雰囲気(1)
感染対策の拡充提案	設備の拡充によって感染対策が可能(1)
図書館の職員の対応やサービスに満足	現状のサービスに満足している(4) 職員の対応に感謝している(7)
信頼できる図書館職員の必要性	信頼できる図書館職員の必要性(1)
図書館資料に満足している	不都合なく利用できている(4) 対応が迅速(1)

表4 図書館資料、ハード面とソフト面に関する要望

カテゴリー	コード(回答数32)
図書館資料への要望	書籍・雑誌が少ない(2) 書籍を充実してほしい(4) 書籍・視聴覚教材のリクエストの継続(1) 書籍コーナーを充実してほしい(3) データベースが少ない(1) 新たなデータベースを導入してほしい(2) 資料が古い(1)
図書館の設備等への要望	学修のスペースの拡大希望(2) 閲覧スペースの確保(5) 視聴覚資料とスペースの有効活用(2) ラーニング commonsの有効活用(3) 返却ボックスの設置(2)
図書館のサービスに対する要望	開館時間の要望(1) 何でも聞きやすい状態の継続(1) データベースの強みを活かした検索支援(1) 利用促進のためのイベントの要望(1)

スの拡大希望)、〈閲覧スペースの確保〉、〈視聴覚資料とスペースの有効活用〉、〈ラーニング commonsの有効活用〉、〈返却ボックスの設置〉といった5コードが含まれた。【図書館サービスに関する要望】には、〈開館時間の要望〉、〈データベースの強みを活かした検索支援〉といった4コードがあった。

図書館ホームページに関しては、改善が必要と「あまり思わない」と「思わない」で37人(77%)であった。改善が必要と「そう思う」と「ややそう思う」の回答は11名(23%)であり、【ホームページを活用するための充実】として、開館日やラーニング commonsの予約状況、電子コンテンツの入口がトップページにあるとわかりやすいという意見があった。

## 6. 図書館利用に関する教員の期待(表5・6)

学生の図書館利用に関する教員の期待は32人の回答があり、【学修に必要な図書の充実】、【教育的な図書館利用支援の充実】、【実践に関する知を探究できる場】、【学生の図書館利用環境に関する期待】の4カテゴリーが挙げられた。【学修に必要な図書の充実】は、〈蔵書の質と量〉、〈専門書の充実〉、〈学修に必要な図書の充実〉の3コードが挙げられた。

学生がレポートや実習などで必要な図書や雑誌、冊数、版の更新といった充実を期待していた。【教育的な図書館利用支援の充実】は、〈論文などの文献検索の支援〉、〈教育的な図書館利用支援〉、〈知りたい知識を正しく得られる〉の3コードが含まれた。【実践に関する知を探究できる場】は、〈看護の根拠や関連する知を探究できる場〉、〈新たな知識が得られる場〉、〈学修コンテンツの情報提供〉の3コードが含まれた。【学生の図書館利用環境に関する期待】は、〈個人やグループワークで活用できる場〉、〈資料検索のためのPCや印刷の充実〉、〈閲覧しやすいスペースの確保〉、〈授業前の短時間の開館〉の4コードであった。

図書館利用者としての教員の期待は27人の回答があり、【レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援】、【多様な蔵書や非来館サービスの充実】、【知への探究を楽しむ場】、【教育研究に関する情報発信】、【様々な利用対象に向けたサービスへの期待】の5カテゴリーが挙げられた。【レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援】は、〈レファレンスサービスの利用〉、〈データベースの充実の継続〉、〈情報リテラシーへの支援〉の3コードが含まれた。【多様な蔵書や非来館サー

表5 学生の図書館利用に関する教員の期待

カテゴリー	コード(回答数32)
学修に必要な図書の充実	蔵書の質と量(3) 専門書の充実(2) 学修に必要な図書の充実(2)
教育的な図書館利用支援の充実	論文などの文献検索の支援(3) 教育的な図書館利用支援(4) 知りたい知識を正しく得られる(3)
実践に関する知を探求できる場	看護の根拠や関連する知を探求できる場(5) 新たな知識が得られる場(2) 学修コンテンツの情報提供(1)
学生の図書館利用環境に関する期待	個人やグループワークで活用できる場(2) 資料検索のためのPCや印刷の充実(2) 閲覧しやすいスペースの確保(2) 授業前の短時間の開館(1)

表6 図書館利用者としての教員の期待

カテゴリー	コード(回答数27)
レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援	レファレンスサービスの利用(4) データベースの充実の継続(2) 情報リテラシーへの支援(1)
多様な蔵書や非来館サービスの充実	非来館での図書館サービスの充実(3) 専門書を含め多様な蔵書や雑誌の充実(5)
知への探究を楽しむ場	知的好奇心を満たす場(1) 知への探究心をかき立てる場(1) 自分が気づかなかった価値ある情報との出会い(1) 自ら調べて学習する楽しさを体験(1) 無限の可能性を追求(1)
教育研究に関する情報発信	学内外の教育や研究に関する情報の集積と発信(4)
様々な利用対象に向けたサービスへの期待	学生や地域住民の利用に向けた環境や対応の充実(3)

【本の充実】は、〈非来館での図書館サービスの充実〉、〈専門書を含め多様な蔵書や雑誌の充実〉の2コードが含まれた。【知への探究を楽しむ場】には、〈知的好奇心を満たす場〉、〈知への探究心をかき立てる場〉、〈自分が気づかなかった価値ある情報との出会い〉、〈自ら調べて学修する楽しさを体験〉、〈無限の可能性を追求〉が含まれた。

教員が学生に利用させる上で図書館に期待することは、【学修に必要な図書の充実】と【教育的な図書館利用支援の充実】が求められ、【実践に関する知を探求できる場】という期待があった。一方で教員が利用者として図書館に期待することは、教育者かつ、研究者として、【レファレンスサービスや情報リテラシ

ーへの支援】、【多様な蔵書や非来館サービス】であり、知を探し求めると共に見究めることができる場という期待があった。このように図書館には、【多様な蔵書や非来館サービスの充実】を期待するのみでなく、【知への探究を楽しむ場】として【レファレンスサービスや情報リテラシーへの支援】を要望していた。

#### IV. 考察

##### 1. 図書館の利用実態に関すること

来館型利用と非来館型利用の割合は、どちらもほとんど差はなかった。その理由として、COVID-19感染予防対策の影響により、2020

年度はオンラインでの図書館利用が進んだことが背景にあったと考える。コロナ禍での利用環境として図書館では、新たにリモートアクセスを設定したり、電子コンテンツのトライアルを実施したりした。そのため、来館型利用では、図書や雑誌、視聴覚資料の貸出、閲覧などの利用が高く、非来館型利用では、医中誌 Web や OPAC などデータベースや映像コンテンツの利用が高かった。非来館型利用は、自宅などからでもアクセスできるデータベースや電子コンテンツを中心に利用されている現状であった。

## 2. 図書館利用に関する満足度と図書館への期待からみえた図書館機能

図書館利用に関する満足度と図書館への期待からみえたことは、教員が研究のためのデータベースとしても、教育に必要な資料・教材を所蔵する場としても図書館の重要性を認識していたことであった。

図書館機能・サービスで重視するものには、図書や雑誌の種類・数、文献データベースの種類・数、文献・資料の取り寄せ、図書や雑誌、映像などの電子コンテンツの種類と数であった。特に、図書や雑誌の種類では、専門書が揃っていることに加えて、専門分野に関連する書籍のニーズも高かった。また、専門書は版の改訂が速く、書籍の内容が古くなり学修や研究などに活用しにくくなるため、版の更新といったニーズがあった。現状では、図書館ホームページからの紀伊國屋書店 Book Web Pro を用いて図書をリクエストでき、版の更新のニーズに応えている。

雑誌の種類に関しては、所蔵する雑誌に加えてメディカルオンラインや CINAHL with Full Text といったデータベースから全文を閲覧できる文献が増加してきた。従来、教員は研究室からデータベースが利用でき、学生は学内 PC などから利用できる環境であった。2020 年度はさらに、COVID-19 感染予防対策

のため、学生も学外からのアクセスで論文を検索し、論文全文を閲覧でき、卒業論文など課題のための文献利用が可能であった。データベースや閲覧環境の充実は、教員の研究活動を支援するとともに学生の研究や学修も支援することができると思う。

また、学外からもアクセスし利用できる電子コンテンツのニーズが高まっていた。電子ブックや映像コンテンツは、実習中の学生が同時にいつでもどこからでもアクセスして学ぶことができる。実際に 2020 年度はリモートも活用した実習となり、電子コンテンツは学外からでも非常に活用できた。臨地に行けない状況のなかでも、学生は学びを止めることなく学修できた。文部科学省(2020)からの実態調査結果では、電子コンテンツの整備費の増加が報告されており、電子コンテンツの充実は、リモートと対面での学びを併用しているなかでも学修環境の整備にもつながると考える。

学生の学修に必要な図書や雑誌、視聴覚資料、電子コンテンツの充実は、学生の教育に欠かせない。短期大学部では修学基礎、看護学部では導入基礎演習や看護研究方法、看護学研究科目などで図書館利用ガイダンスを活用して、ある疑問を調べる方法を学び、探求する学びが取り入れられている。さらに、概論や援助論、実習といった科目においても、レファレンスを活用する課題を通して、図書館が看護に関する知を探求できる場になるのではないかと考える。現在行われている図書館による利用ガイダンスは、継続してほしいという要望があった。また、教員がレファレンスサービスを利用した際、職員の対応に満足していた。さらに、レファレンスサービスや情報リテラシー支援をもっと活用したいという期待もあった。

このように図書館は、資料を所蔵する場としてだけでなく、資料にいつでもどこからでもアクセスしやすい環境の整備が求められ

ていた。また、学生に対する教育的な図書館利用支援の充実に加えて、教員もレファレンスサービスを活用した教育や研究というニーズがあった。今後、大学図書館の新たな役割として、学術情報リテラシーを育む教育やリテラシーを活用した研究に期待されている(立田, 2021)(梅澤, 2017)。A大学教員も利用者としてかつ教育者として、研究に必要で正確な情報を効率よく入手し、研究や教育で活用したいというニーズがあると考えられる。

### 3. 図書館環境に関する課題

図書館環境に関する課題では、図書館スペース(学修・閲覧・視聴覚・ラーニングcommons)の有効活用、返却ボックスの設置、運営面では開館時間が挙げられた。

図書館スペース(学修・閲覧・視聴覚・ラーニングcommons)は、2021年4月に新校舎へ図書館が移転したことに伴い、環境が大幅に改善された。ラーニングcommonsのメインエリアは、新図書館に併設する形で拡張された。同様に新校舎に移設されたPC室や新たに設置されたプレゼンテーションエリア、図書館2階のグループ学習室も含め、大学全体がラーニングcommonsであるというコンセプトはそのまま、新しいリーフレットを図書館で作成し、配布し、活用を促している。

返却ボックスの設置は、利便性と費用対効果から検討が必要である。図書館開館時間については、平日20時までの開館が継続されて、学生の学修環境の充実が満足といった回答があった。その一方で、現在の9時よりも15分でも早く開館してほしいとの要望があったため検討が必要である。

## V. まとめ

図書館利用者としての教員を対象に、図書館利用実態と図書館環境、サービスに関する

満足度と期待を調査した。その結果、利用実態では、非来館型利用のニーズが高まっていることが確認できた。図書館への満足度と期待では、教員は研究や教育を通して、図書館を知の探究の場として認識しており、図書や雑誌、視聴覚資料といった一次資料の充実が重要と捉えていた。特に非来館型利用でも一次資料の電子化に加え、二次資料としてのデータベースの活用を期待していた。さらに、大学図書館へは、ラーニングcommonsや所蔵資料の充実はもちろんのこと、利用者と資料を結びつける場としてレファレンスサービスや情報リテラシー支援への要望があった。

## 文献

- 文部科学省 科学技術・学術分科会(2010). 大学図書館の整備について(審議のまとめ)―変革する大学にあって求められる大学図書館象一, 2021/8/23, [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301607.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301607.htm)
- 文部科学省(2020). 令和元年度学術情報基盤実態調査について(概要), 2021/8/23, <https://www.jaspul.org/news/asset/docs/06e2a95387d3f2bf70d5144b24e21371741b7a4a.pdf>
- 立田慶裕(2021, 3月). 大学図書館の挑戦. 私立大学協会 教育学術新聞 2835号. 4.
- 筑波大学(2018). 筑波大学附属図書館利用者ニーズに関するアンケート集計結果, 2021/8/19, <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/2018/libsurveyresultsj.pdf>
- 梅澤貴典(2017). オープンアクセス時代の学術情報リテラシー教育担当者に求められるスキル, 2021/8/31, [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/105/0/105\\_1456/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/105/0/105_1456/_pdf/-char/ja)